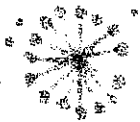


ゆりかご園だより

3期(10~12月)のねらい

2022.10.1

手を使ってつくりだす活動を中心に
園生活を豊かにしよう。



先月、予期せず保育士の休暇が重なり、家庭保育や保育時間の短縮などをお願ひし、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

その間、フリー保育士や主任だけでは対応しきれず私も保育のカバーにスりました。

久しぶりに出勤してきた担当保育士にこの間の子供たちの様子を伝え、日頃の苦勞をねぎらうと、「えー！私が保育している時はそんな姿は見られない」と驚くので、私も驚きました。

そうなんです。子どもたちが私に見せる姿は普段の姿と違ったのです。

食事の時が特に違って、おいぼりを絞らない子、椅子に座らず立ち歩く子、スプーンを使わず手づかみで食べたと思ったら「スープごはんにしちゃった！」と目を離したスキにみそ汁の中にご飯を投しグチャグチャに混ぜてニッコリする子も…。

「担当保育士の時はちゃんと食べているのに、どうして私の時は…」と、40年前の私なら、自分の力量不足に悩み落ち込んだと思います。しかし今は「保育園にはいろんな大人がいるから皆に同じ姿を見せなくてもそれはそれでいいのかな」と開き直りともいえる不思議な余裕で、担当保育士と子どもの、食事の様子を覗きに行きました。私の顔を見たたん「スープごはんにしてないよ！」と笑顔に向けて「ちゃんと食べてるよ」アピールをするSくん。

担当不在時のSくんの様子がいつもとは違うと感じていたであろうUちゃんは「インチョー先生のこと嫌いだからちゃんと食べなかつたんじゃない？」と一言。「え、そうなの？」と内臓ドキッとした私ですが、「違う、好きだよ」というSくんのことばにホッ。担当保育士が「好きだからふざけちゃうの？」ときどき「うん」とうなずいていました。

担当保育士がことばで威圧的に子どもを従わせることはありません。保育者と子どもの関係がしっかりできていて、先生のことが大好きだからこそ頑張れるしカッコイイところを見せたいと思うのでしょう。普段あまりなじみのない私の前では頑張らなくてもいいし、ついふざけてしまったのかもしれませんが。

子どもは家庭と園、二つの社会に属しています。家と園では見せる姿が違ってもありますし、園での大人と子どもの関係も様々です。たくさんの大人との関わりを通して、甘えたり自分を律したり…。安定した小情緒や社会性を身につけていってほしいと思います。